

阪井與志雄：北海道大学理学部附属海藻研究施設 Yoshio SAKAI: Institute of
Algalogical Research, Faculty of Science, Hokkaido University

本研究施設は海藻の発生、生理、生態、分類などの研究を目的として、世界にさきがけて設立されたものである。現在は海藻の培養による発生、形態形成、栄養生理、系統分類に関する研究が進められている。

北大理学部設立3年後の昭和8年に室蘭市舟見町所在の元北海道水産試験場室蘭支場の土地・建物の寄附を受け、理学部附属海藻研究所として開設されたのが嚆矢である。その後昭和12年に舟見町モトマリ浜に庁舎を新築移転し、更に昭和33年通称チャラツナイ浜に移転し現在に至っている。

チャラツナイは噴火湾口に突出した室蘭半島（この半島全部とつけ根が室蘭市である）のほぼ中央にあり、太平洋に面し、対岸に駒ヶ岳を仰ぎ、噴火湾を一望に取める眺望絶佳の地である。本研究施設附近一帯の沿岸の環境は全く汚染されておらず、干潮時には広大な岩礁が干出し、沿岸動植物の採集に適している。

噴火湾は殆ど円形で直径約50 kmあり、低温・低塩分の千島寒流が2月から、高温・高塩分の津軽暖流が8月から夫々反時計回り、時計回りで湾内に流入し海況は非常に複雑である。本研究施設前浜の水温は最低2°C（2月）、最高22°C（8月）が平年値である。

このような海況のため、千島寒流地帯のミツイシコンブは室蘭半島の太平洋岸にかなり広く分布するが湾内では点々と狭い範囲で生育しているにすぎない。これに対して津軽暖流系のマコンブは湾内一帯に広く分布し、養殖対象種とされているが、室蘭附近では特にヤヤンコンブと呼ばれる特異な型をとるものが多い。ワカメ、テングサはここがわが国太平洋岸における分布

の北限であり、日本海特産の褐藻スギモクの群落が室蘭港入口附近にみられるのも興味深い。ヒバマタなどは分布の南限である。このほかエンドウコンブ、ガゴメなど特徴的なものもみられ、寒流系、暖流系の海藻がまじって種類の総数は約200種に達する。

本研究施設の敷地は56,869 m²で、延面積654 m²の本館と本年新設された仮設培養棟33.3 m²とからなっている。本館は3階建て、地階に実習室、培養室、ボイラー室、作業室、食堂、炊事場、浴室、控室があり、1階には教官研究室（2）、標本室、事務室、宿直室、和室（3）などがあり、2階には教官研究室、学生研究室、実験室（2）、滅菌室、図書室、暗室などがある。培養棟は本館と連絡されており、ここには温度・光の制御された培養室があり、その外10基の大形培養庫が配置されている。この外に船外機付磯舟があり、海藻採集に使用されている。

研究施設への順路は次のとおりである。室蘭本線室蘭駅で下車し、線路沿いに国道36号線を約1 kmもどり、市役所横から地球岬観光道路（坂道）に入り約2 kmの地点、地球岬に至る手前にチャラツナイ浜に下る道路があり、その海岸に研究施設がある。室蘭駅からこの間約3.5 km、歩いて約40分、車を使用すると約7分で研究施設に到着する。

本研究施設を利用されたい方は、利用の目的、人数、期間を明示して、〒051 室蘭市母恋南町1-13、北海道大学理学部附属海藻研究施設、施設長宛（電話0143-22-2846）に申しこんで下さい。7～8名の収容能力はありますが、食事は自炊です。



図1. 海藻研究施設全景

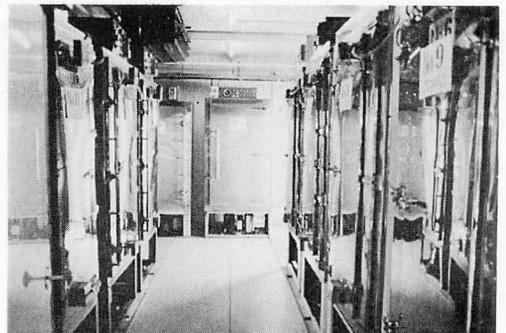


図2. 培養棟内部